

環境経営レポート



環境省
エコアクション21
認証登録番号 0007794



(活動期間: 2023 年 7 月～2024 年 6 月)

作成日 2024 年 8 月 31 日

目次

1.会社概要	2 ページ
2.環境経営方針	4 ページ
3.実施体制・主な責任と権限	5 ページ
4.環境経営目標とその実績値	7 ページ
5.環境経営計画	11 ページ
6.環境活動の取り組み結果の評価	12 ページ
7.次年度の取り組み内容	18 ページ
8.環境関連法規等の取りまとめ	20 ページ
9.代表者による全体の評価と見直し	21 ページ

1.会社概要

会社情報

■事業者名	株式会社 鳥繁産業	■代表者	鳥越 繁一
■資本金	4000 万円	■創業年月日	1965 年 4 月 1 日

事業内容

■鮮度保持剤(脱酸素剤、乾燥剤、保冷剤、アルコール揮散剤)の設計開発・製造・販売

事業所(対象範囲は全組織、全事業活動)

■本社	〒879-2461	大分県津久見市上青江 4180 番地
■第二工場	〒879-2473	大分県津久見市徳浦宮町 2-18
■資材管理センター	〒879-2461	大分県津久見市中町 6-48
■関東営業所	〒350-1123	埼玉県川越市脇田本町 4-6 KM-IIビル2F
■関西営業所	〒606-8266	京都府京都市左京区北白川久保田町 5-2

事業規模

年度	事業所	売上高(百万円)	自社製造数(百万個)	従業員数(人)	敷地面積(m ²)
2021	本社	1435	542	92	8644
	関東営業所			2	28
	関西営業所			3	24
2022	本社	1552	565	93	8644
	関東営業所			2	40
	関西営業所			3	24
2023	本社・第二工場	1604	565	95	9242
	関東営業所			1	40
	関西営業所			3	24

環境管理責任者及び担当者連絡先

■環境管理責任者	代表取締役専務 営業部長
■EA21 事務局	常務取締役 生産管理本部長



鉱山（石灰石）と海に囲まれた環境で企業活動を行っております

1.会社概要

会社沿革

1965 年(昭和 40 年)	津久見市徳浦宮町に鳥繁産業所創業 石灰乾燥剤ドライカル製造販売開始
1988 年(昭和 63 年)	シリカゲル乾燥剤製造販売開始
1990 年(平成 2 年)	脱酸素剤エバーフレッシュ製造販売開始
1992 年(平成 4 年)	株式会社鳥繁産業に社名変更
1994 年(平成 6 年)	保冷剤ファインパック製造販売開始 京都営業所開設
1999 年(平成 11 年)	品質保証の国際規格 ISO9002 の認証を取得
2000 年(平成 12 年)	高速自動包装機追加導入 エタノール揮散剤 アルベールを開発、製造販売開始
2003 年(平成 15 年)	シート状乾燥剤 シートドライヤー販売開始 品質保証の国際規格 ISO9001 の認証を取得
2004 年(平成 16 年)	本社第二工場増床
2005 年(平成 17 年)	環境対応シリカゲル コバルトフリーTM の開発、製造販売開始
2006 年(平成 18 年)	東京営業所開設
2010 年(平成 22 年)	微酸性水電解水「アクアサニター」製造販売開始 環境マネジメントシステム「エコアクション 21」の認証取得(本社)
2013 年(平成 25 年)	大分県の経営革新計画の認証企業に選出 環境マネジメントシステム「エコアクション 21」の認証拡大(東京・京都営業所)
2014 年(平成 26 年)	関東営業所(旧東京営業所)埼玉県川越市に移転 関西営業所(旧京都営業所)へ名称変更 大分県による地域牽引企業創出事業の認定企業に選ばれる
2015 年(平成 27 年)	創業 50 周年による記念行事を行う 新社屋完成、本社・工場を移転
2016 年(平成 28 年)	商標「お菓子の健康診断」登録
2017 年(平成 29 年)	両面酸素検知剤付き脱酸素剤「エバーフレッシュ VQ」発売開始 台風 18 号の水害事業者向けに復興支援物資としてアクアサニターを提供
2018 年(平成 30 年)	微酸性電解水にてハラル認証取得(別府モスク)
2020 年(令和 2 年)	創業 55 周年を迎える 関東営業所事務所移転(埼玉県川越市)
2021 年(令和 3 年)	事業再構築補助金採択
2023 年(令和 5 年)	第二工場に生産設備を増設

2.環境経営方針

●基本方針

株式会社 鳥繁産業は、地球環境の保全が、人類共通の最重要課題と認識し、製品・サービスの開発提供を通して、次世代に美しい地球を受け継げるよう、循環型社会の実現に努めます。

●行動指針

1. 当社に関連する環境関連法規制などの要求事項を順守します。
2. 当社は、以下を重点事項として取り組みます。
 - ① 気候変動の原因である二酸化炭素の排出量抑制のために、電気・燃料の使用量の削減に取り組みます。
 - ② 廃棄物の減量化、再資源化に努めます。
 - ③ 貴重な水資源の有効活用に努めます。
 - ④ 化学物質の適正な管理に努めます。
 - ⑤ 環境に配慮した資材（グリーン）調達に努めます。
 - ⑥ 環境に優しい製品の提供に努めます。
 - ⑦ 地域に根ざし、地域との共生を図り、社会貢献・地域貢献を推進します。
3. 環境方針は全社員に周知し、一丸となり環境保全推進に取り組みます。
また重点実施項目に基づき、目標を設定し、PDCA を回すことで継続的な改善を図ります。

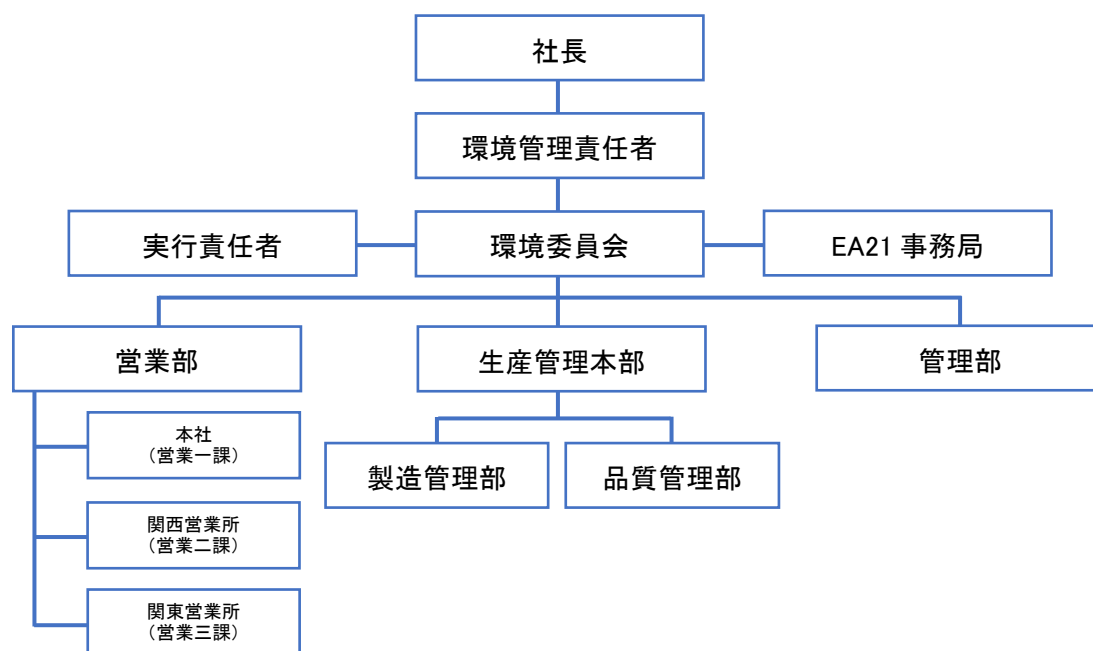
2022 年 1 月 4 日

株式会社 鳥繁産業
代表取締役社長

鳥越繁一

3.実施体制・主な責任と権限

全社組織図



主な責任と権限

経営責任者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営方針の策定 ・環境経営目標及び環境経営計画の承認 ・環境管理責任者の任命、環境活動に必要な資源の確保 ・環境経営システム全体の評価及び見直し ・環境経営計画書兼管理表の承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築及び運用管理 ・環境活動の取り組み結果を経営責任者へ報告 ・環境経営計画書兼管理表の作製 ・外部からの苦情・要望対応責任
環境委員会	・環境経営システムに関する重要事項の審議・決議(環境経営方針、目標、環境活動、EA21 環境マニュアル、環境経営レポートなど) ・月 1 回の委員会を開催し、実績を把握(3 ヶ月に 1 回の実績評価) ・是正・予防処置の必要性の判断及び対策の効果を確認
EA21 事務局	・環境管理責任者の業務補佐 ・環境経営レポート案の作成 ・外部からの苦情・要望受付窓口 ・法規制の遵守評価の確認
実行責任者	・指標別環境経営計画案の作成 ・環境経営目標の実績把握、進捗管理、環境委員会での報告、目標達成に向けた推進
各部門・全従業員	・環境経営方針、環境経営目標を理解し、環境への取り組みの重要性を自覚 ・自主的、積極的に環境活動への参加

4.環境経営目標とその実績値

環境経営目標

①本社

項目	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
		実績値	目標値	目標値	目標値
1.二酸化炭素の削減	Kg-CO2/百万個	352	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
2.電力使用量の削減	kWh/百万個	619	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
3.燃料使用量の削減	リットル/百万個	14.3	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
4.産業廃棄物の削減	Kg/百万個	137	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
5.一般廃棄物の削減	Kg/人	7.5	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
6.水資源の有効活用	m ³ /人	6.2	前年度比 1%減	前年度比 1%減	前年度比 1%減
7.化学物質の適正管理	%	実施率 100%	実施率 100%	実施率 100%	実施率 100%
8.グリーン購入件数の向上	件/月	12 件/月 実施率 100%	12 件/月 実施率 100%	12 件/月 実施率 100%	12 件/月 実施率 100%
9.環境配慮型製品販売の 拡大	%	30.9%	29%	30%	31%
10.社会貢献	%	実施率 100%	実施率 100%	実施率 100%	実施率 100%

【各項目の説明】

※1 二酸化炭素排出量について(2022～2023 年度に適用)

本社工場 : 株式会社新出光の 2022 年度二酸化炭素調整後排出係数 0.428kg-CO2/kWh を使用。

SKC、原料工場 : 九州電力の 2022 年度二酸化炭素調整後排出係数 0.475kg-CO2/kWh を使用。

関東営業所 : 東京電力の 2022 年度二酸化炭素調整後排出係数 0.398kg-CO2/kWh を使用。

※2 目標値の原単位について(2017 年度～)

上表 1～4 の算出方法: 自社工場生産量(個)にて算出。

上表 5～6 の算出方法: 本社・工場従業員数(一人当たり)にて算出。排水量を述べ人数で割った数値で算出。

※3 燃料使用量: ガソリンと経由が対象となる。

※4 廃棄物の定義

①産業廃棄物: 工場内より発生した不適合品及び顧客から回収した使用済み乾燥剤を示す。

②一般廃棄物: 事務系一般廃棄物及び工場から出た一般廃棄物を示す。

※5 グリーン購入件数の向上: 資材の購入の際はエコ商品の購入推進に努める。

※6 社会貢献: 地域への貢献の一環として従業員が分担して清掃活動を行う。

ボトルキャップ、古切手の収集を行う。

※7 化学物質の適正管理: 削減目標は事実上困難なので、数値目標ではなく実行形の目標で管理していく。

実行内容は環境経営計画に示す。

※8 環境配慮型製品の販売拡大: 環境配慮製品は、「環境対応型シリカゲル」、「微酸性電解水」、

「小型化脱酸素剤」を対象とする。

※9 液化天然ガス(LPG)の使用量を算出しているが、使用割合が低いいため目標設定の対象外とする。

但し、CO2 排出量には液化天然ガス(LPG)を含み管理する。

※10 水使用量の削減は、排水(＝全体の水使用量－製品に使用する水使用量)を使用する。

4.環境経営目標とその実績値

②関東営業所、関西営業所

項目	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
		実績値	目標値	目標値	目標値
1.電力使用量の削減	%	実行率 100%	実行率 100%	実行率 100%	実行率 100%
2.燃料使用量の削減	%	実行率 100%	実行率 100%	実行率 100%	実行率 100%
3.一般廃棄物の削減	%	実行率 100%	実行率 100%	実行率 100%	実行率 100%
4.水資源の有効活用	%	実行率 100%	実行率 100%	実行率 100%	実行率 100%
5.社会貢献	%	実行率 100%	実行率 100%	実行率 100%	実行率 100%

【各項目の説明】

※1 電力使用量の削減について、月次管理は実行率 100%を目指す。

関東営業所の電力使用量は二酸化炭素排出量に含めて管理する。

※2 燃料使用量の削減について、月次管理は実行率 100%を目指す。

※3 廃棄物の定義

分別を徹底し、リサイクル不可能な事務系一般廃棄物とする。

一般廃棄物の削減について、月次管理は実行率 100%を目指す。

※4 水資源の有効活用について、月次管理は実行率 100%を目指す。

※5 化学物質の取り扱いが無い為、対象外とする。

※6 グリーン購入について、購入物は本社支給の為、目標としては掲げず、購入時にはグリーン品を購入する。

※7 環境配慮型製品の販売課題について、営業所単位で管理せず、営業部門として取り組むため対象外とする。

※8 社会貢献について、ペットボトルキャップ・古切手(本社へ郵送)を収集し、近隣収集場(銀行など)に寄付する。

4.環境経営目標とその実績値

③第二工場

項目	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
		実績値	目標値	目標値	目標値
1.電力使用量の削減	kWh/枚	－	実績把握	前年比 1%減	前年比 1%減
2.燃料使用量の削減	リットル/枚	－	実績把握	前年比 1%減	前年比 1%減
3.産業廃棄物の削減	kg/枚	－	実績把握	前年比 1%減	前年比 1%減
4.水資源の有効活用	%	－	実績把握	実行率 100%	実行率 100%

【各項目の説明】

※1 目標値の原単位について(2023 年度～)

上表 1～3 の算出方法: 自社工場ラミネート数(枚)にて算出。

※2 燃料使用量は第二工場専用車の燃料使用量を用いる。

※3 水資源の有効活用について、月次管理は実行率 100%を目指す。

4.環境経営目標とその実績値

●2023 年度目標と実績（取組期間：2023 年 7 月～2024 年 6 月）【年度末評価】

①本社

項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
1.二酸化炭素の削減	Kg-CO2/百万個	297	302	98%	×
2.電力使用量の削減	kWh/百万個	613	613	100%	○
3.燃料使用量の削減	リットル/百万個	14.2	15.9	89%	×
4.産業廃棄物の削減	Kg/百万個	136	137	99%	×
5.一般廃棄物の削減	Kg/人	7.5	7.4	100%	○
6.水資源の有効活用	m ³ /人	6.2	6.5	95%	×
7.化学物質の適正管理	%	100%	100%	100%	○
8.グリーン購入件数の向上	件/月	241	254	100%	○
9.環境配慮型製品販売の拡大	%	30.0%	33.3%	100%	○
10.社会貢献	%	100%	100%	100%	○

②関西営業所

項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
1.電力使用量の削減	%	100%	100%	100%	○
2.燃料使用量の削減	%	100%	100%	100%	○
3.一般廃棄物の削減	%	100%	100%	100%	○
4.水資源の有効活用	%	100%	100%	100%	○
5.社会貢献	%	100%	100%	100%	○

③関東営業所、

項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
1.電力使用量の削減	%	100%	100%	100%	×
2.燃料使用量の削減	%	100%	100%	100%	×
3.一般廃棄物の削減	%	100%	100%	100%	×
4.水資源の有効活用	%	100%	100%	100%	×
5.社会貢献	%	100%	100%	100%	×

※達成度 ○ … 達成、× … 未達成

※二酸化炭素総排出量：173,186kg-CO2

4.環境経営目標とその実績値

●2023 年度目標と実績（取組期間：2024 年 4 月～2024 年 6 月）【年度末評価】

④第二工場

項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
1.電力使用量の削減	kWh/枚	実績把握	52.9	100%	○
2.燃料使用量の削減	リットル/枚	実績把握	0.0	100%	○
3.産業廃棄物の削減	kg/枚	実績把握	0.1	100%	○
4.水資源の有効活用	%	実績把握	100%	100%	○

※実績把握を目標とする。

5.環境経営計画

●当社の環境経営計画(取り組み項目、目標、責任者、取組内容、担当)は以下の通りです。

■二酸化炭素排出量の削減

電気使用量(責任者:中津留)		
目標	取組内容	担当
電気使用量の削減	① 休憩時間は使用しない電気や電源を切る	全社
	② 機械の電源は運転 1 時間 30 分前に入れる	製造管理
	③ PC 不要時はノート PC を閉じる	全社
	④ エアコンフィルターの清掃(事務所・工場:年2回)	全社
ガソリン・軽油使用量(責任者:若狭)		
ガソリン・軽油使用量の削減	① 社用車は給油時にタイヤの空気圧点検を行う	全社
	② エコドライブ 10 のすすめを推進	
	③ 各車両の持ち込み回数を記録(配達場所、回数)	

■廃棄物排出量の削減

産業廃棄物(責任者:山添)			
目標	取組内容		担当
産業廃棄物の削減	①	工程内不良率の集計	製造管理
	②	工程内不良の要因の分析	
	③	予防処置5件/年を展開	
	④	原料の再利用	
	⑤	排出量の管理	
一般廃棄物(責任者:宗)			
一般廃棄物の削減	①	ゴミ分別の徹底	全社
	②	事務所・一般ゴミ以外の試験品などの分別・計測	
	③	イベント・衛生対策等のゴミを個別で集計	

■水資源の有効活用(責任者:川野)

目標	取組内容	担当
水使用量の削減	① 社内報にみどりくんしんぶんの記事を掲載	全社
	② 漏水チェック(月1回)	
	③ 衛生対策での電解水の持ち帰り、噴霧等での使用	

■化学物質(責任者:牧)

目標	取組内容	担当
化学物質の適正管理	① 環境管理物質に関する顧客要求事項の順守	品質管理
	② 環境管理物質の情報入手	
	③ 使用原材料について(M)SDS の入手	
	④ 社外分析機関による環境管理物質の有無確認	

■グリーン調達(責任者:藤澤)

目標	取組内容	担当
グリーン購入件数の向上	① 原材料および資材のグリーン調達の推進	購買管理 全社
	② 事務用品、作業着等はエコマーク商品の購入	
	③ 事務消耗品・資材・向上備品は 3R 品を購入	

■環境配慮型製品(責任者:高橋)

目標	取組内容	担当
環境配慮型製品の販売拡大	① 既存客への販促活動(Q・L→QJ・LJの切替)	営業
	② 新規案件への QJ・LJ の提案	
	③ アクアサニターの販促活動 和菓子・洋菓子店	

■社会・地域貢献(責任者:宗)

目標	取組内容	担当
社会貢献	① 工場周辺の環境美化に努める	全社
	② ボトルキャップの収集および寄付を行う	
	③ 古切手の収集および寄付を行う	

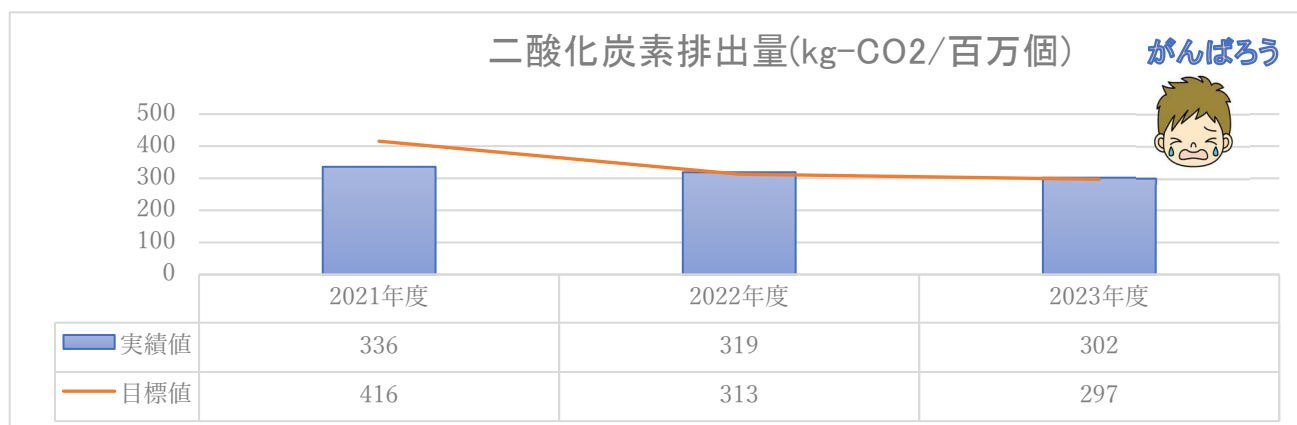
6.環境活動の取り組み結果の評価

●環境活動の取り組み結果とその評価

①本社

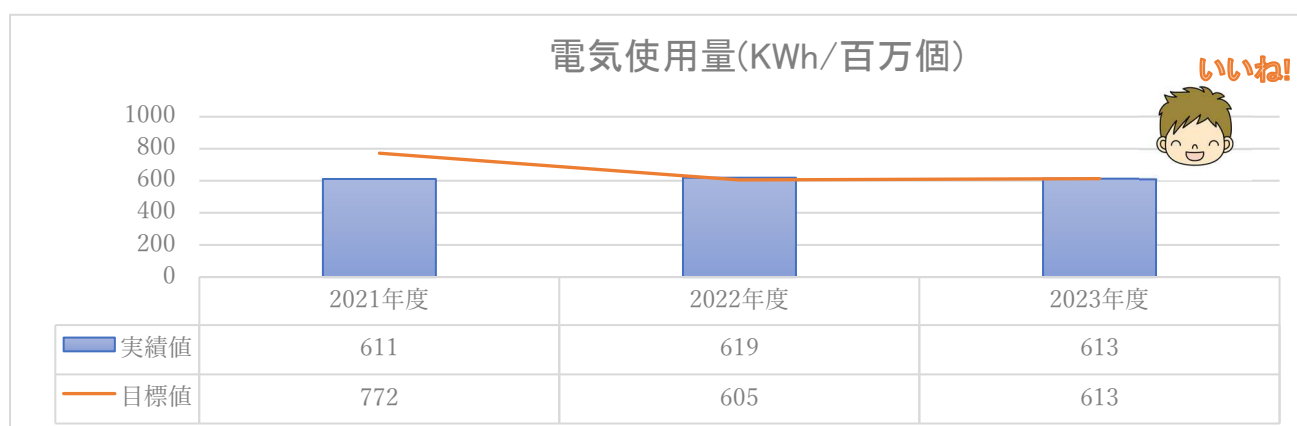
二酸化炭素排出量の削減

目標達成率:98%



電気使用量の削減

目標達成率:100%

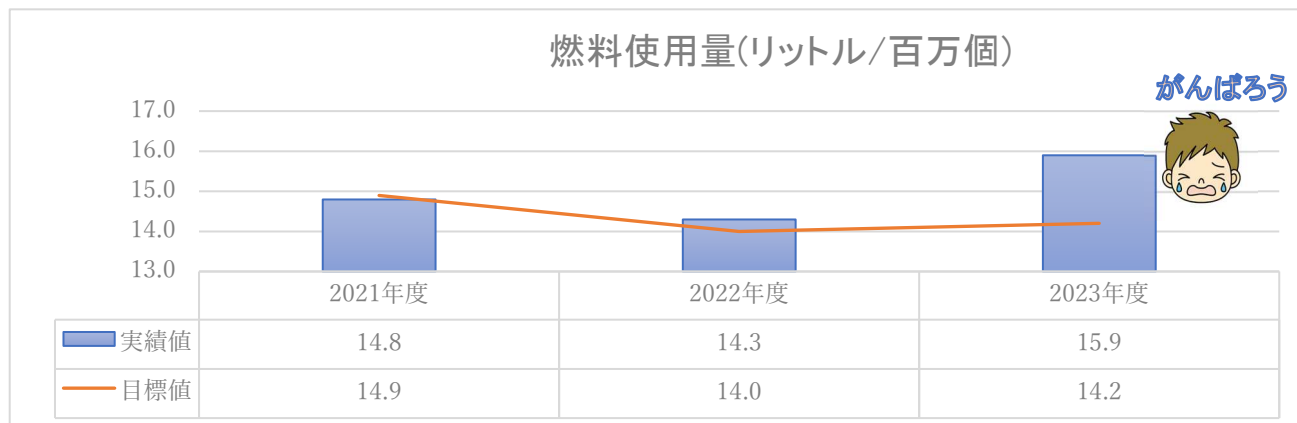


具体的な取り組み	実行状況	評価
①休憩時間は使用しない電気や電源を切る	○	機械の電源タイマーを 30 分早めたことで電気使用量は増えたが、エアータオルなど使用頻度が少ない時間帯はタイマーを導入したことで100%達成した。
②機械の電源は運転1時間 30 分前に入れる	○	
③PC 不要時はノート PC を閉じる	○	
④エアコンフィルターの清掃(事務所・工場:年 2 回)	△	

6.環境活動の取り組み結果の評価

燃料使用量の削減

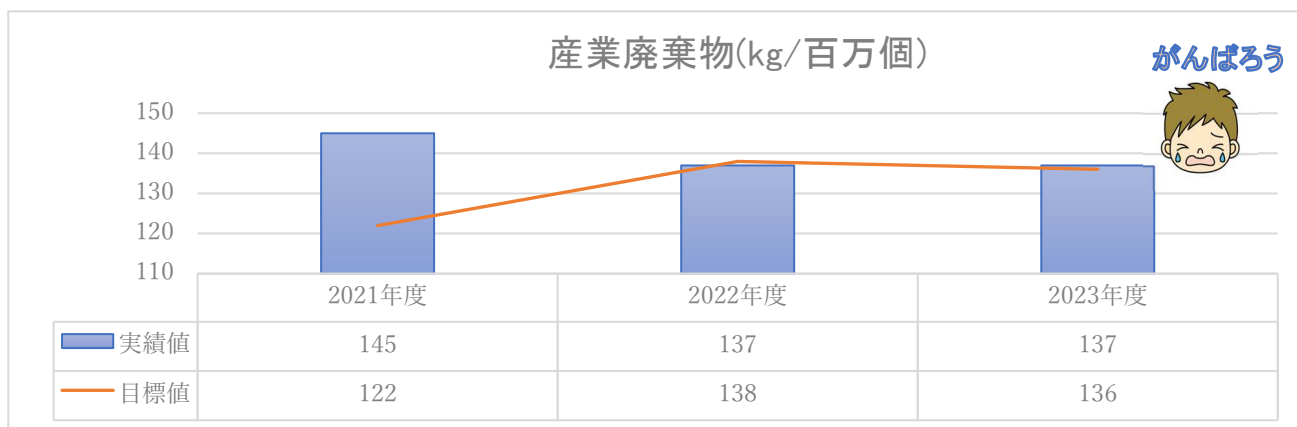
目標達成率: 89%



具体的な取り組み	実行状況	評価
①社用車は給油時にタイヤの空気圧点検を行う	○	8月から消石灰造粒の乾燥機、9月から大分に週3回配送が増えて灯油・軽油使用量が増加した。
②エコドライブ10のすすめを推進	△	
③各車両の持ち込み回数を記録(配達場所、回数)	○	

産業廃棄物の削減

目標達成率: 99%

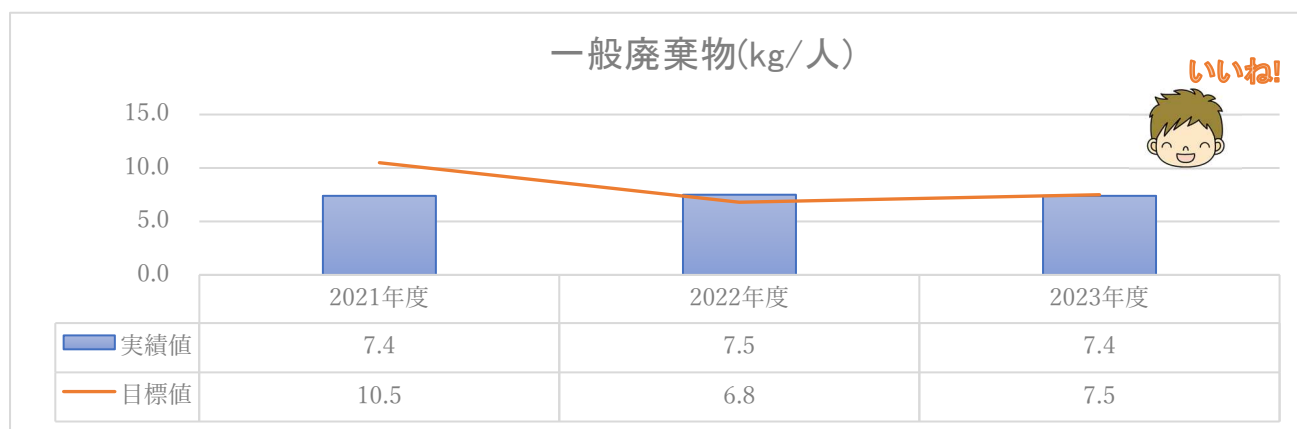


具体的な取り組み	実行状況	評価
①工程内不良率の集計	○	原料の再利用に関して、金属探知機で排出された製品の原料は再利用ができなかったため、原料ロットによっては廃棄物が増えた。作業方法を統一できるよう手順書等は今後完成予定。
②工程内不良の要因の分析	△	
③予防処置5件/年を展開	△	
④原料の再利用	△	
⑤排出量の管理	○	

6.環境活動の取り組み結果の評価

一般廃棄物の削減

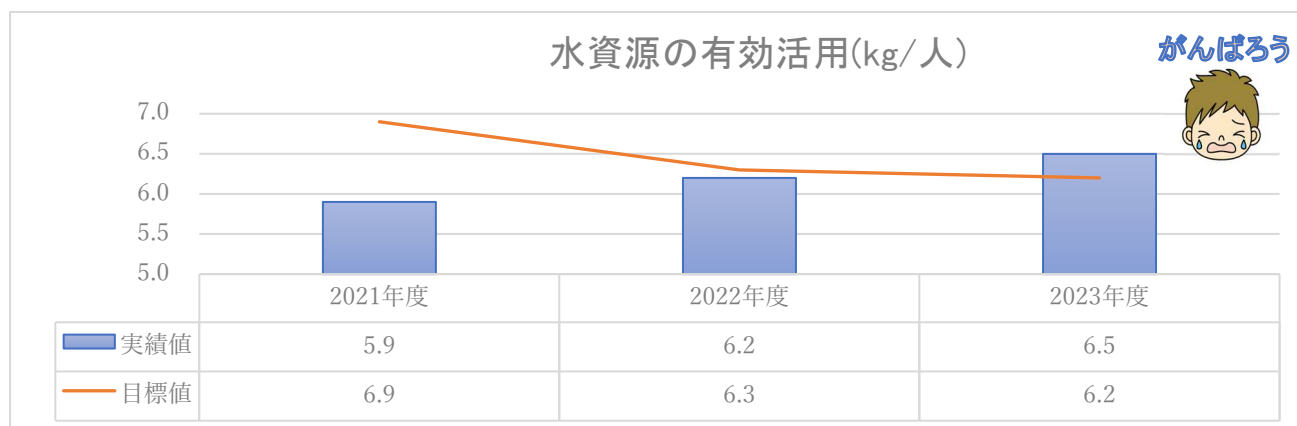
目標達成率: 100%



具体的な取り組み	実行状況	評価
①ゴミ分別の徹底	△	ゴミ排出量の管理は出来ているが、増減要因の特定まで行えなかったことが今後の課題です。
②ペーパータオル使用のルール化	○	
③排出量の管理	○	

水資源の有効活用

目標達成率: 95%



具体的な取り組み	実行状況	評価
①社内報にみどりくんしんぶんの記事を掲載	○	みどりくんしんぶんの定期発行ができなかった。また、使用量増減の情報収集がうまくできていなかったのが今後の課題です。
②漏水チェック(月1回)	○	
③衛生対策での電解水の持ち帰り、噴霧等での使用	○	

6.環境活動の取り組み結果の評価

化学物質の適正管理

目標達成率:100%

具体的な取り組み	実行状況	評価
①環境管理物質に関する顧客要求事項の遵守	○	環境管理物質の調査はできた。 セミナー、同業他社、仕入先より法規制の改訂の情報収集を随時行っている。年1回の外部機関によるRoHS分析で非含有を確認した。
②環境管理物質の情報入手、把握	○	
③使用原材料についてMSDSの入手	○	
④社外分析機関による分析値による環境管理物質の非含有無の確認	○	

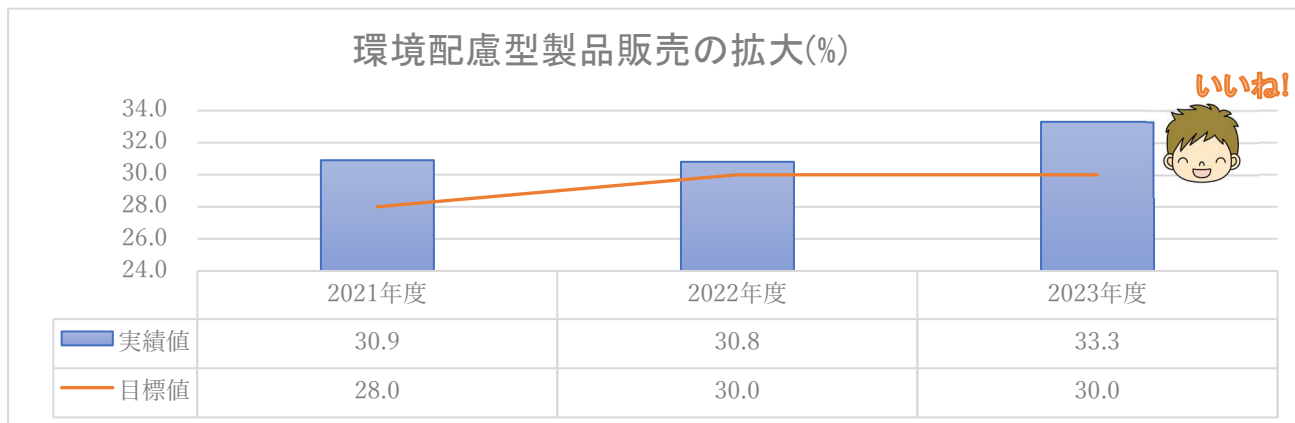
グリーン調達の推進(実行責任者:藤澤)

目標達成率:100%

具体的な取り組み	実行状況	評価
①原材料および資材のグリーン調達の推進	○	アスクル、モノタロウでの購買ルールが変わり、各担当者ごとにエコ商品を積極的に購入できた。
① 事務用品、作業着等はエコマーク商品の積極的な購入	○	
② 事務消耗品はリサイクルされたものを購入	○	

環境配慮型製品販売の拡大

目標達成率:100%



具体的な取り組み	実行状況	評価
①既存客への販促活動	○	脱酸素剤は積極的な案内ができた。アクアサニター、コバルトフリーについては外部環境を考慮しつつ依頼があれば案内している。
②新規案件へのQJ・LJの提案	○	
③アクアサニターの販促活動 和・洋菓子(代理店・ユーザ)	△	

6.環境活動の取り組み結果の評価

社会貢献

目標達成率:100%

具体的な取り組み	実行状況	評価
①工場周辺の環境美化に努める	○	神社清掃もでき、周辺の溝掃除も行った。小中学校の社会見学・職場体験も受け入れた。
②ボトルキャップの収集および寄付を行う	○	
③古切手の収集および寄付を行う	○	

②関東営業所・関西営業所

電気使用量の削減

具体的な取り組み	実行状況		評価
	関東営	関西営	
目標達成率:	100%	100%	不要な電気などは消すなどの活動ができた。
1) クールビズ、ウォームビズ	○	○	
2) エアコンの温度設定(夏:26～28 度、冬:20～21 度)	○	○	
3) 不要時の消灯	○	○	
4) 席を長時間空ける時は PC モニターを閉じる	○	○	
5) エアコンフィルターの清掃(1 回/3 カ月)	○	○	

燃料使用量の削減

具体的な取り組み	実行状況		評価
	関東営	関西営	
目標達成率:	100%	100%	3 月以降は公共交通機関の利用ができた。
1) エコドライブの推進(エコドライブ 10 のすすめ実行)	○	○	
2) 公共交通機関の利用	○	○	
3) ガソリン使用量の記録	○	○	

一般廃棄物の削減

具体的な取り組み	実行状況		評価
	関東営	関西営	
目標達成率:	100%	100%	毎月分別、計量もできた。
1) ごみの分別	○	○	
2) コピー紙の裏面利用	○	○	
3) リサイクル(紙・段ボール)の推進	○	○	
4) 重量の記録	○	○	

水資源の有効活用

具体的な取り組み	実行状況		評価
	関東営	関西営	
目標達成率:	100%	100%	トイレなどの水を無駄に使わないように心がけた。
1) 節水ステッカーによる意識向上	-	○	
2) トイレ大小の使い分け	○	○	
3) 水使用量の記録	○	○	

グリーン調達への推進

具体的な取り組み	実行状況		評価
	関東営	関西営	
目標達成率:	100%	100%	購入自体がほぼなかった。
1) 環境ラベルのついた商品の積極的な購入	-	-	

6.環境活動の取り組み結果の評価

社会貢献

具体的な取り組み	実行状況		評価
	関東営	関西営	
目標達成率:	100%	100%	キャップ、古切手を収集できた。
1) ペットボトルキャップの収集・送付	○	○	
2) 古切手の収集および寄付を行う	○	○	

※実行状況 達成度 ○ … できた、△ … できない時もあった、× … できなかった

【活動写真】



毎月神社周りの清掃を行い、神社と会社のフェンス沿いの清掃も行った

7.次年度の取り組み内容

①本社・第二工場

項目/実行責任者	具体的な取り組み	対応部門		
		営業部	製造管理部	品質管理部 管理部
1.二酸化炭素排出量の削減 ①電気使用量の削減 実行責任者:中津留	1) 休憩時間は使用しない電気や電源を切る	○	○	○
	2) 機械の電源は運転 1 時間 30 分前に入れる		○	
	3) PC 不要時はノート PC を閉じる	○	○	○
	4) エアコンフィルター清掃(事務所・工場:年 2 回(6 月, 11 月))	○	○	○
②ガソリン、軽油使用量の削減 実行責任者:若狭	1) 社用車は給油時にタイヤの空気圧点検を行う	○	○	○
	2) エコドライブ 10 のすすめを推進(財省エネルギーセンター)	○	○	○
	3) 各車両の持ち込み回数を記録する(配達場所、回数)	○	○	○
2.廃棄物排出量の削減 ①産業廃棄物の削減 実行責任者:山添	1) 機械の段取り作業の分解・改善		○	
	2) 機械ごとの停止要因の集計・改善		○	
	3) 教育の徹底・記録		○	
	②一般廃棄物の削減 実行責任者:宗		○	○
3.水資源の有効活用 実行責任者:川野	1) ごみ分別の徹底		○	○
	1)-1 事務所・一般ごみ以外の試験品などの分別・計測の徹底	○	○	○
	1)-2 イベント・衛生対策などのごみを個別で集計		○	○
	2) 社内報にみどりくんしんぶん記事を掲載(2 カ月ごと)		○	
4.化学物質の適正管理 実行責任者:牧	2) 漏水チェック(月 1 回)		○	
	3) 衛生対策での電解水の持ち帰り、噴霧等での使用励行	○	○	○
	1) 環境管理物質に関する顧客要求事項の順守			○
	2) 環境管理物質の情報入手、把握			○
5.グリーン調達推進 実行責任者:藤澤	3) 使用原材料について SDS の入手			○
	4) 社外分析機関の分析値による環境管理物質の 非含有無の確認			○
	1) 原材料および資材のグリーン調達の推進		○	○
	2) 事務用品、作業着などはエコマーク商品の積極的な購入	○	○	○
6.環境配慮型製品販売の拡大 実行責任者:高橋	3) アルベール外装袋をバイオマスインクに切り替え			○
	1) 新規客・既存客への QJ・LJ 販促活動	○		
	2) 既存製品の見直し	○		
	3) アクアサニターの販促活動 和菓子・洋菓子(代理店・ユーザ)	○		
7.社会・地域貢献 実行責任者:宗	1) 工場周辺の環境美化に努める	○	○	○
	2) ボトルキャップ・古切手の収集及び寄付を行う	○	○	○
	3) 出前授業、O-Lab での体験学習・講座を行う		○	○

7.次年度の取り組み内容

②関東営業所、関西営業所

項目/実行責任者	具体的な取り組み	対応部門	
		関東営	関西営
1.電気使用量の削減 実行責任者:中津留	1) クールビズ、ウォームビズ	○	○
	2) 不要時の消灯	○	○
	3) 席を長時間空ける時はPCモニターを閉じる	○	○
	4) エアコンフィルター清掃(3カ月に1回)	○	○
2.ガソリン、軽油使用量の削減 実行責任者:若狭	1) エコドライブ10のすすめを推進(財省エネルギーセンター)	○	○
	2) ガソリン使用量の記録	○	○
3.一般廃棄物の削減 実行責任者:宗	1) ごみ分別の徹底	○	○
	2) 裏紙の利用	○	○
	3) リサイクル(紙、段ボール)の推進	○	○
4.水資源の有効活用 実行責任者:川野	1) 節水ステッカーによる意識向上	○	○
	2) トイレ大小の使い分け	-	○
	3) 水使用量の記録	○	-
5.社会・地域貢献 実行責任者:宗	1) ボトルキャップ・古切手の収集及び寄付	○	○

8.環境関連法規等の取りまとめ

●環境関連法規等遵守評価表

全社(本社・第二工場・関西営業所・関東営業所)

適用法規	法規の要求事項	遵守評価結果		
		本社	関西営	関東営
水質汚濁防止法	事故時の届出	○	-	-
浄化槽法	特定施設の届出	○	-	-
	法定検査	○	-	-
	定期点検	○	-	-
	定期清掃の実施	○	-	-
騒音規制法	特定施設の届出	○	-	-
	規制基準の順守	○	-	-
振動規制法	特定施設の届出	○	-	-
	規制基準の順守	○	-	-
廃棄物処理及び 清掃に関する 法律	保管場所表示、保管基準の順守	○	-	-
	運搬・処分業者との委託契約	○	-	-
	マニフェストの交付・回収	○	-	-
	マニフェスト交付状況の報告	○	-	-
	自社運搬の場合、運搬車両への表示、マニフェスト携帯	○	-	-
	事業系一般廃棄物の分別・廃棄	○	○	○
リサイクル法	長期使用、再生資源の努力義務、適正処理	○	○	○
家電リサイクル法	買換え時リサイクル料負担、適正処理	○	○	○
自転車リサイクル法	車検又は買換え時リサイクル料負担、適正処理	○	-	○
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	○	-	-
毒物及び劇物取締法	保険施設・容器への表示	○	-	-
	盗難・漏洩防止	○	-	-
消防法	屋内・外貯蔵所の届出	○	-	-
	取扱い責任者の選任・届出	○	-	-
	保管管理基準の順守	○	-	-

環境関連法規等の順守状況および定期評価の結果、環境法規制の逸脱はありませんでした。
また、過去3年間に違反や訴訟等は発生しておりません。

9.代表者による全体の評価と見直し

●見直しに必要な記録

環境管理責任者の報告	代表者の指示事項
■法的要求事項の順守状況	
環境関連法規制順守チェック表で評価した結果、問題なし	-
■目標達成状況	
●全体評価 2023 年度(2023 年 7 月～2024 年 6 月)は、事故や休業労災は無く無事に終了することが出来た。然しながら、2 件の怪我が発生しており、衛生委員会を中心に再発防止に努める。 活動(行動)制限がなくなり、得意先が開催する展示会の出展などを含む営業活動や情報収集を目的とした展示会見学、前年度に続き社員旅行や 5 年ぶりの忘年会などの活動が出来た 1 年だった。 ●出荷数量 出荷量は、2023 年度上半期(7 月～12 月)は+1,409 万個(増)前年対比 103.6%、下半期(1 月～6 月)は▲44 万個(減)99.9%、年間では+1,364 万個(増)101.8%となった。 なお、売上高は 2022 年度の 1,544 百万円から、前年対比 103.8%の 1,604 百万円となった。 ●人的資源 人的資源については、退職 7 名(定年退職 1 名、契約満了 1 名)、入社 8 名で増 1 名となった。新入社員への教育等社内のフォロー体制はより強化され、サポートしてくれたスタッフには感謝している。 ●第二工場(シート状乾燥剤工場)の立ち上げ準備 2023 年 8 月から仕入品である「シート状乾燥剤」の内製化が始まった。生産稼働時間は低いため、営業活動をすすめ、稼働時間を上げていきたい。 なお、2024 年 4 月～6 月の期間にて稼働における電力使用量、燃料使用量、産業廃棄物量について実績把握を行った。次年度から、これら項目の削減目標に加え、水資源の有効活用に取り組むこととする。 ●目標達成状況 1.「二酸化炭素排出量の削減」 (1)「二酸化炭素排出量の削減」 「電気使用量の削減」は達成、「燃料使用量の削減」は未達成となった。 (2)「電気使用量の削減」 年間を通して、製造工程における残業時間の短縮により、	2023 年度も環境に関する事故がなく、無事に終わる事が出来たことに心から感謝します。 また、環境委員会を中心に部署を超え、全社をあげて継続的な改善活動が出来ていることに感謝します。 ここ数年は習慣や技術の変化が激しく、これをみんなで作れば正解がある！とはいかなくなりました。しかし、「まずやってみる！」「そして直す！」の基本的な考え方は変わっていません。そうしたことから、今年度の社長方針は「今できることは、今やろう！にしました。 この 1 年、皆さんは互いに協力し、良品生産、良品出荷に取り組んでくれました。感謝しています。 前年に引き続き、資材などの値上げが続いています。私たち同様、土産物菓子を販売しているお客様も厳しい状況が続いていると思います。今できる精一杯の活動を行い、良品生産・良品出荷・サービスの向上を目指し、お客様に喜ばれましょう！ 第二工場(シート状乾燥剤工場)での内製化が開始されました。設備の開発、生産および品質などの開発、お客様への案内など、携わっていただいたスタッフに感謝します。引き続き、チャレンジを続けてください。次年度から、シート状乾燥剤工場も環境活動に取り組むとのことですが、継続的な改善を続け、資源の有効活用をお願いします。 社員一人一人がそれぞれの役割を全うし、これからの「学び」をこれからの製品開発、設備改善、工程改善、サービス向上にしっかり繋げてください。オンライン、オフラインをうまく使い分け、お客様との繋がりを工夫し、丁寧に伝えることを心掛け、継続的に当社の行動も変化させる必要があります。「何を」「どう」変化させていくか、しっかり観察し、考え、行動に移してください。そして、地域への感謝の思いを大切に「安全作業」をお願いします。

電気の有効活用が出来たと考える(年間 372 時間削減)。現在、生産効率化の目標を掲げ、取り組みを行っている。目標達成には至っていないが、定時内で最大のパフォーマンス発揮し、ライフワークバランスの充実を目指す。

(3)「燃料使用量の削減」

2023 年 8 月から造粒消石灰原料の内製化が始まり、乾燥工程で灯油を使用するようになった。内製化により、充填工程の歩留まり向上、炭酸ガス吸着量の改善がみられる。

また、9 月からは週三回大分市内の配送が増えたため軽油の使用量が増えた。一方で出荷業務効率化が図れており、燃料使用量が増加するが、引き続き有効に活用を目指す。

2.産業廃棄物の削減

内製化した生産個数は約 22 万個増加(100.04%)したが、産業廃棄物は、前年同等の約 200kg 増加となり、目標未達となった。

石灰乾燥剤の原料の中でも金属探知機に検出された製品の廃棄などが要因としてある。

3.一般廃棄物の削減

一般ゴミは、前年より在籍従業員は 1 人増えたが 5.5Kg 減少(前年度比 99.2%)し、結果として目標達成となった。引き続き、ごみの分別の呼びかけを行い、環境負荷低減を目指す。

4.水資源の有効活用

水の使用量は、前年より 25.08 m³(104.5%)増加し、目標未達となった。使用量に異常値が見られる月もあり、水道局に確認を取ったが原因が掴めなかった。引き続き、使用量の情報収集をしっかりと行う。

5.化学物質の削減(適正管理)

品質管理のスタッフが適正に情報収集と管理を行っており、化学物質に関する事故はなく、顧客要求による情報提供(資料提出)は進んでいる。

6.グリーン調達の実進

この一年も、資材の値上げが続き、交渉や安定調達に苦労をかけた。グリーン調達を心掛け、目標値を大幅に達成し、素晴らしい取り組みをしてくれた。消耗品などの購入ルールが変わったが、各担当者がエコ商品を積極的に購入した。

7.環境配慮型製品の販売拡大

2023 年度も展示会への出店の他にニュースレターや月刊

トリンゲ(ハガキ)の送付など顧客と繋がることを考え活動してくれた。 環境配慮型製品は前年より6,300万円(105.3%)増加し、目標は達成できた。新しい年度もお客様に選ばれる活動を進めてもらいたい。 8.社会貢献 本社周辺の環境美化については、社内を3つのグループに分けて、月に1度、会社前の神社を中心に近隣の清掃活動を行ってきた。 この1年は、小学生向け社会見学や中学生の職場体験、津久見高校との関わりも持てた。 引き続き、地域貢献や社会貢献に取り組んでいきたい。	
■苦情	
お問い合わせなし	
■是正及び予防措置の有無と対応	
1.二酸化炭素の削減 年度末評価が達成率98%のB判定のため是正処置の必要があるが、電気使用量削減は目標達成、燃料使用量削減の年度末評価が目標達成率89%で目標未達のため、是正処置を進めることとする。 2.燃料使用量削減 年度末評価が達成率89%のB判定のため是正処置の必要がある。 2023年8月から消石灰の造粒原料の内製化が始まった。これにより品質改善は見られるが、製造工程に乾燥機を使用した原料の乾燥があり、この際に灯油を使用する。また、9月からは週三回大分市内の配送が増え、トラック輸送するため軽油使用量が増えた。 この点から燃料を使用する機会が増え、結果として目標未達になったと考えている。しばらくは様子を見ることとした。 3.産業廃棄物の削減 年度末評価が達成率99%のB判定のため是正処置の必要がある。 石灰乾燥剤の原料となる生石灰に金属成分が検出され、原料ロットによっては廃棄物が増えた。天然鉱物のため、改善が難しく、供給元に相談したが課題解決に至らなかった。 作業効率向上に向け、段取りや片付けおよびメンテナンスの手順を整備している。良品生産・良品出荷に向け、引き続き取り組んでいく。 4.水資源の有効活用	1.二酸化炭素の削減 コメントなし 2.燃料使用量削減 出荷工程の取り組みが良好になっており、これは皆さんの日々の努力のおかげです。感謝しています。 消石灰原料の造粒化は2013年から取り組んできたことがやっと形になりました。地域瀬源である石灰石の可能性を最大限発揮できるように燃料の有効利用を心がけ安全作業をお願いします。 また、週三回大分市内の配送は安全運転でお願いします。出荷工程の取り組みが良好になっており、これは皆さんの日々の努力のおかげです。感謝しています。引き続き、良品出荷をお願いします。 3.産業廃棄物の削減 石灰乾燥剤「ドライカル」の原料である石灰石は天然鉱物が故に金属成分の検出は致し方ありません。供給メーカーとしっかり協議し、廃棄ロス削減に向け取り組みをお願いします。 4.水資源の有効活用 私たち鳥繁産業の製品には水の使用は欠かせません。情報収集を行い、水資源の有効活用をお願いします。

年度末評価が達成率 95%の B 判定のため是正処置の必要がある。 まず、この 1 年は社内報の発行が 1 回(2023 年 7 月)に留まり、環境啓蒙活動スペース「みどりくんしんぶん」による情報発信が出来なかった。 水の使用量は、前年より 25.08 m³(104.5%)増加した。使用量に異常値が見られる月もあり、水道局に確認を取ったが原因がつかめなかった。引き続き、使用量の情報収集をしっかり行う。	
■前回の指摘事項のフォロー結果	
指摘事項なし	-

●変更の必要性の有無・指摘事項

社長(経営責任者)	
[環境経営方針] 2024 年度は社内スタッフ相互に、お客様に喜んでもらえる 1 年にしてください。植物の種は「いい土を作って」「日あたりを気にして」「しっかりと水をあげて」「ほめて」時間をかけてこそ芽吹きます。私の人生訓でもあるように、いまきれいに咲いている花は、寒い冬にしっかりと育てて準備して、つぼみを蓄えてきた結果です。だからこそ、日ごろから小さなありがたいの種をまきましよう。植物を育てるように。 私たち鳥繁産業は”(心)豊かな暮らし”の実現を目指します。行動指針の「感謝④私たちは、地球環境のためにできることを惜しまずにチャレンジ、行動します。」「奉仕⑤私たちは、地域に根ざし、地域と共生を図り、未来の大人たちへ繋ぎます。」を実行し、社員一人一人が「常に考える」意識を持ち、自らの良心を信じ、プロセスを大事に行動すれば、自ずと結果に繋がると考えます。環境活動の取り組みを身近に感じ、”当たり前”にしていましよう。	
変更の必要性: 有 (無)	
[目標・環境経営計画] 変更する必要があると思います。 今期目標達成した部門はさらなる進化をさせ、未達部門は「目標値」および「具体的な取り組み」の見直しをおこない必要に応じ変更する。また、第二工場(シート状乾燥剤工場)の稼働に際し、環境経営目標および計画を立て、より良い製品づくりを進めてください。 社員一人一人が「常に考える」意識を持ち、自らの良心を信じ、プロセスを大事に行動すれば、自ずと結果に繋がると考える。月次活動結果を次月以降の活動に繋げてください。	
変更の必要性: (有) 無	
[実施体制] 変更の必要性はないものと判断した。	
変更の必要性: 有 (無)	

以上